

第3回 庄内総合高校教育基本計画策定委員会の概要

- 1 日時 平成30年11月14日（水） 10:30～12:00
- 2 会場 私学会館 会議室
- 3 出席者 委員長、副委員長、委員7名
- 4 報告
 - (1) 第2回教育基本計画策定委員会の概要
 - (2) その他
- 5 協議
 - (1) 基本理念、目指す学校像、育てる生徒像、教育目標（案）
 - (2) 設置課程の目標と教育課程等（案）
 - (3) その他
- 6 主な意見等
 - (1) 基本理念、目指す学校像、育てる生徒像、教育目標（案）
（意見、質問なし）
 - (2) 設置課程の目標と教育課程等（案）

全日制の課程

（委員）

○ 産業クリエイト系列で開設する工業科目は、どのような機械を使って、どのような実習を行うのか。また、4つの系列を展開するとのことだが、それを可能にする教員が配置される見込みはあるのか。

（部会長）

○ 工業高校のような十分な施設設備はないが、旋盤や工作機械があるので、それで実習を行っている。それ以上の実習を行いたい場合などは、産業技術短大に行って実習を行っている。また、教員定数については学級減に伴い減ると見込まれるが、系列ごとの開設科目数を見直したり履修できる科目に制限を設けたりするなどして科目数を絞り込みたい。さらに定時制と全日制の教員相互の授業の持ち合いも検討している。このようにすれば4系列が可能だと考えている。

（委員）

○ 「義務教育段階の知識を確認する」とは中学校の学習内容の復習を行うということか。また、「社会で働く知識・技能」とはどういうことか。「社会で活用できる知識・技能」という意味か。

（部会長）

○ 現在でも本校では朝学習などで行っているが、義務教育段階の内容を確認したり復習したりすることである。次に、「社会で働く」ということだが、それは社会に出て地域の一員として活躍する際に生かされる知識・技能という意味である。ただし、「社会で働く」という表現については改めて検討したいと思う。

(委員)

○ 現在の産業クリエイト系列ではどのような工業科目を開設しているのか。機械系以外に電気系もあるのか。

(部会長)

○ 現在開設している科目は、工業技術基礎、製図、生産システム技術、環境工学基礎、自動車工学などがある。

(委員)

○ やはり「社会で働く」という表現は改めた方がよいと思われる。

(部会長)

○ 改めて検討し、見直したい。

定時制の課程

(委員)

○ 「よのなか系列」の「よのなか」がピンと来なかった。「かかわり」や「つながり」という意味か。

(副委員長)

○ 「よのなか」「まなび」という名称は気になる。系列の中身が分かりにくいのではないか。また、「〇〇系列で学びました」と生徒が自信を持って言えるようなものが望ましいと考えると、学ぶ側からの視点も欠けているのではないかと思う。新しさという点では理解できるが、名称についてはもう一度考えていただきたい。

(部会長)

○ 系列というのはコース制のような生徒の所属を指すのではなく、学校で開設している科目のグループの名称であって、「〇〇系列に所属する」ということではない。あくまで科目のグループ名に過ぎない。

(副委員長)

○ それは理解しているが、全日制の「産業クリエイト」のように中学生にも浸透させるという意味からも、新しさだけではない視点が必要だという意味で意見を申し上げた。

(委員)

○ 「教養総合」や「産業総合」のような科目の中身が分かるようなものが望ましいのではないか。そこで学んだ生徒が企業との面接等で「このような系列で学んできました」と言ったと

きに、相手に分かっていただけるかという心配もある。「まなび」はともかく「よのなか」はどうか。新しさだけでない視点が必要か。

また、全日制と定時制の両方から科目が選択できるのなら、名称を全日制とある程度統一した方がいいのではないか。

(委員)

○ 「まなび」「よのなか」という名称は新しさや柔らかさはあるが、中学生等からは理解しにくいのではないか。また、全日制の生徒も定時制の科目を履修する計画があるなら、課程を越えて履修しやすいような名称が望ましいのではないか。例えば「教養総合」「産業総合」などというような。

(委員)

○ かつて東京の和田中の校長だった藤原先生が考えたものに「よのなか科」というのがあるが、これだったら中学生が学ぶ科目・内容としてふさわしいと思う。しかし、高校のカリキュラムの中での系列の名称としてはどうなのか。具体性が乏しくイメージが湧きにくい。「産業○○」など、世の中に向かって仕事をする、社会人として必要な知識・技能を身に付けるというイメージを抱かせる名称がよいと思われる。原案は少し柔らかすぎるという気がする。

(委員長)

○ では、定時制の系列の名称については、御意見を踏まえて、もう一度ご検討ください。

(委員)

○ 現在の庄内総合高校は地域連携を積極的に行っていたが、地域活性化に大きな力となっているし、地域にとってなくてはならない学校である。その庄内総合高校に定時制が入ることになる。定時制の目標に「地域との連携を大切にする」「地域をフィールドとした学び」とあるが、現時点では地域との関わりをどう考えているのか。

(部会長)

○ 例えば、「地域の自然」という科目で地域の田んぼを借りて稲作を学ぶ、地域からのポイント講師に来ていただく、インターンシップをするなど考えている。定時制も地域に出ていくことを考えている。

(委員)

○ ボリュームは多少異なるかもしれないが、全日制と同じように考えていると理解してよいか。

(部会長)

○ その通りである。

通信制の課程

(意見、質問なし)

教育の特色

(副委員長)

○ 基本理念や教育目標が、3課程それぞれの目標に反映されているのか。例えば、教育目標の③に「協働的な学習や活動」とあるが、通信制ではどのように反映されているのか。通信制では「自学自習が基本」と書かれているが、これとの関係はどうか。両者はうまく連動しているのか。

(委員)

○ 鶴岡南では全日制と通信制で教育目標が異なる。庄内総合高校は一つの高校なので一つの教育目標というのも理解できるが、鶴岡工業高校も全日制と定時制の教育目標が別であると聞いているので、3課程で別々の教育目標を立てるというのも一つの考えではないか。

(委員)

○ 「特別支援教育の充実」という項目で、スクールカウンセラーや特別支援教育支援員の配置については書かれてあったが、スクールソーシャルワーカーを含んでいるのか。現在、本校では、スクールソーシャルワーカーに、家庭、学校、スクールカウンセラーや特別支援教育支援員の間をつないでいただき、非常に助かっている。よって、庄内総合高校にも配置が望ましいと考えるが、計画ではどのようにになっているか。

(委員長)

○ 現在は県立高校にスクールソーシャルワーカーを配置していない。庄内総合高校に配置するというを現時点で明言することは困難であることをご理解いただきたい。

(委員)

○ 自分にふさわしい時間割を作れるということを基本理念で謳っているが、ここの「定通併修」「全日制と定時制との相互履修」という記述だけでは、十分な説明になっていないのではないか。定時制の「教育課程のイメージ」からも、全日制の科目を選択できるというようなことが見えてこない。定通併修も同様である。3課程併設の意義が課程間の履修にあるとすれば、特に全日制と定時制の相互履修なども計画し、示していく必要があるのではないか。

(部会長)

○ ここには示していないが、全日制と定時制の授業時間が重なる5、6校時に全定併修科目を開設することは作業部会で検討している。

(委員)

○ 了解した。総合学科の特色を生かしたそのような履修の仕方を今後も検討していただきたい。

(委員)

○ 通信制から定時制科目の履修、つまり定通併修は、国から認められた制度で、鶴岡南通信制でも鶴岡工業定時制や酒田西高校定時制の科目を履修している。ただし、通信制から全日制

科目の履修は、授業料徴収等の関係で現実的にはできていない。今回、定通併修と全定併修を計画しているとのことだが、通信制から全日制への履修は計画していない。そこは検討に入らないという理解でよろしいか。

(事務局)

○ 授業料の問題は、定通併修は国から認められた制度で、本県の授業料徴収条例にも明記されている。そして、全日制と定時制との履修（全定併修）については、所属する課程に基づく徴収を行うことで授業料徴収条例上は可能であるとの回答をいただいた。他県の事例なども参考にしながら、教育庁総務課を通して学事文書課の法令審査なども経て確認済みである。

一方で、通信制から全日制への履修については、鶴岡南通信制と全日制の間でも実現できていないように、まだ条例上クリアできていない部分なので、庄内総合高校においても実現が難しい。仮に実現したとしても、現実問題として通信制の生徒が全日制の授業を受講するかどうかといえば、おそらくは受講しないだろうと思われる。

全定併修について改めて述べると、条例上はクリアしているので、部会長からもご説明があったように、現在計画中とのことである。ただし、全日制と定時制の交流の在り方や程度を考えると、定時制の中には全日制とあまり交流したくないという生徒もいることが予想されるので、どの程度の交流を行うのかということも含めて、作業部会で現在検討していただいている。

(委員)

○ 定時制の生徒のことを考えると、全日制ではなく定時制を選んで入学する生徒もいると思うので、全日制と定時制と一緒に活動することについては慎重に検討する必要があると思われる。

以上